萩市
森林・林業
ビジョン

山口県萩市

萩市森林・林業ビジョン　目次

〈はじめに〉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1　基本理念

1）萩市の森林の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2）森林・林業を取り巻く現状と課題 ・・・・・・・・・・・・・・ 3

3）萩市が目指す森林・林業のあり方 ・・・・・・・・・・・・・・ 6

2　将来像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

3　基本方針

1）人と生きるもりづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

2）森と生きるまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

4　基本施策

1）人と生きるもりづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

利益の還元と生産性の向上 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

魅力のある林業の実現 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

多様な森林機能の発揮 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

2）森と生きるまちづくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

森林の恵みを活かした暮らしの創出 ・・・・・・・・・・・・・・ 17

森林に関わる人材の育成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

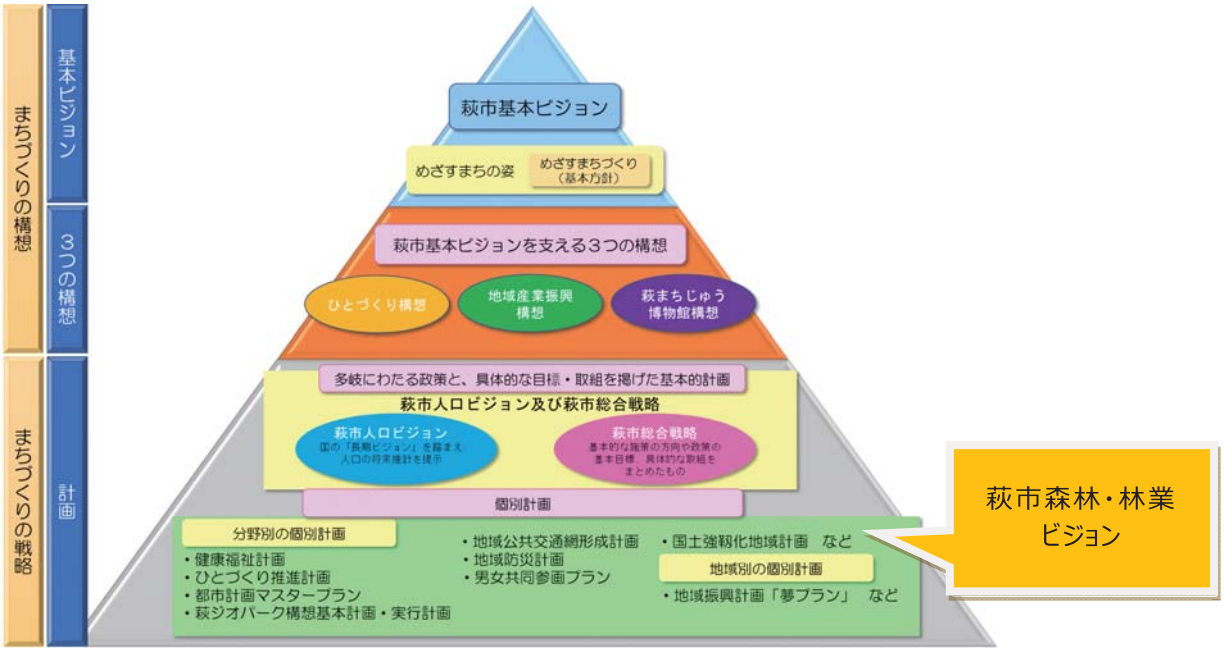
森林資源の価値の上昇 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

〈はじめに〉

萩市を象徴する風光明媚な景観や市民の安らぎの場を形成する森林は、木材生産機能をはじめ、土壌保全や土砂災害の防止、水源涵養（※1）、生物多様性の保全、そしてカーボンニュートラル（※2）を目指すうえで重要な二酸化炭素吸収など多くの機能を持った貴重な財産です。

萩市では、この貴重な森林を健全な姿で次世代に引き継いでいくためには、長期的な森林の将来像を示し、多くの市民と共有しながら取り組む必要があると考え、「萩市森林・林業ビジョン」を策定します。

本ビジョンは、「萩市基本ビジョン」を支える３つの構想を実現するための個別計画に位置付けられるもので、森林の育成・整備から木材をはじめとした森林資源の活用、人材育成まで総合的な施策を推進するための具体的な指針を示すものです。



計画期間は、令和５（2023）年度から令和 34（2052）年度までの 30 年間とし、今後の社会情勢やその時々の課題に柔軟に対応するため、５年ごとに見直しを図ることとしています。

※１「水源涵養」… 雨水などを地中（土壌）に浸透させることにより、洪水や渇水を緩和し、水質を浄化し澄んだ美しい水を私たちに供給してくれる働き。

※２「カーボンニュートラル」… 木材を燃焼すること等により放出される二酸化炭素は、木の成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素であることから、木材利用は大気中の二酸化炭素を増加させないという考え方。

1　基本理念

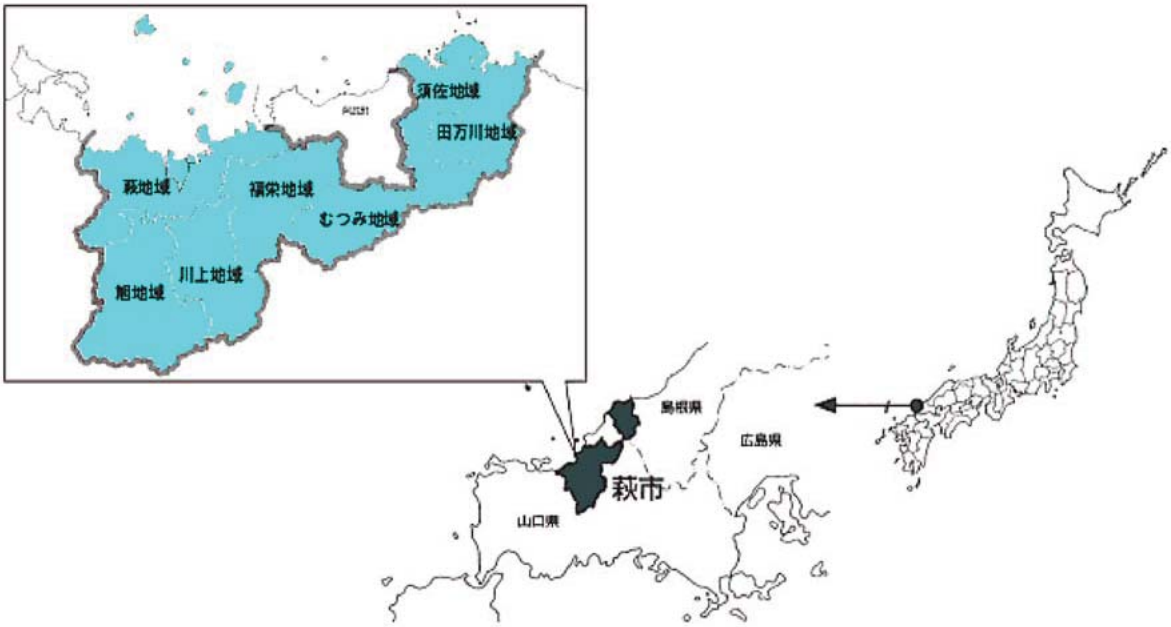
萩市では、先人たちがつないできた貴重な森林を、私たちから未来に引き継げるよう「次世代まで幸せになる林業」を目指し、体系的・継続的な施策を展開します。

１）萩市の森林の現況

萩市は、山口県の北部に位置し、近代日本の幕開けとなった明治維新に関わる多くの志士たちを輩出し、中心部は歴史と文化が織りなす城下町として栄え､周辺部は豊かな自然を有し､観光と一次産業が盛んなまちです。

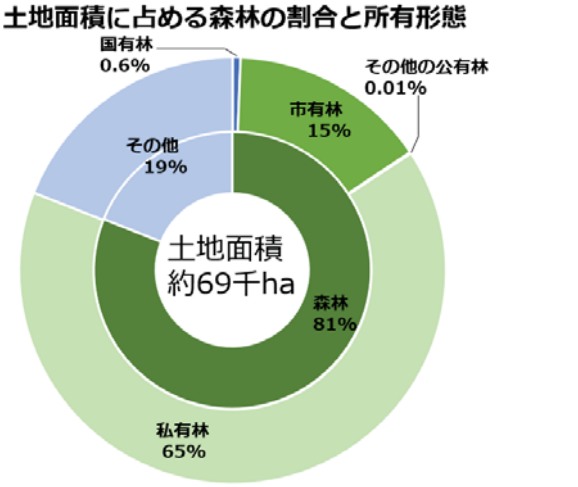
北部は日本海に面し、東部は益田市（島根県)、津和野町（島根県)、阿武町、南東部は山口市、西部は長門市、美祢市に接しています。

総面積は 69,831ha で、このうち森林面積は 56,449ha となっており、市域の８割を森林が占めています。

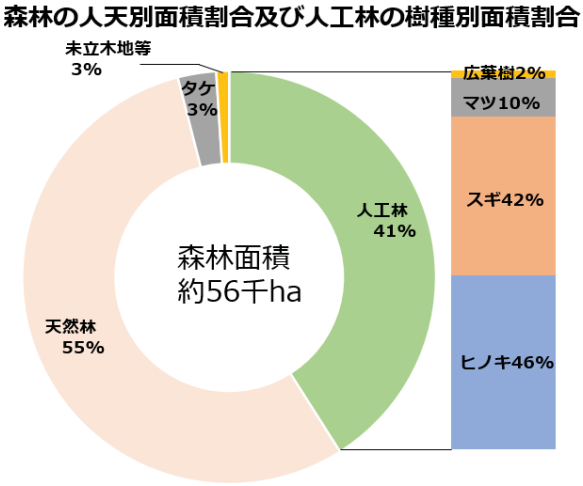


萩市のまちなみや自然の景観

森林面積のうち、国有林が426ha、萩市有林を含む民有林が56,023haとなっており、その４割を占める22,747ha が人工林です。市内のスギ・ヒノキなどの人工林の多くは戦後の拡大造林期に植えられたもので、その多くが成熟し、伐期（※3）を迎えています。

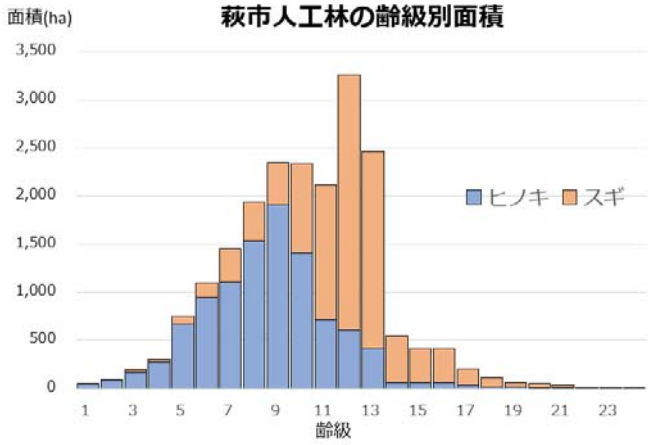


出典：令和３年度山口県森林・林業統計要覧



出典：令和3年度山口県森林・林業統計要覧

伐期を迎えた人工林



※「齢級」…樹木を樹齢によって分けた区分。1齢級は5か年
出典：令和4年やまぐち森林情報公開システム森林簿

２）森林・林業を取り巻く現状と課題

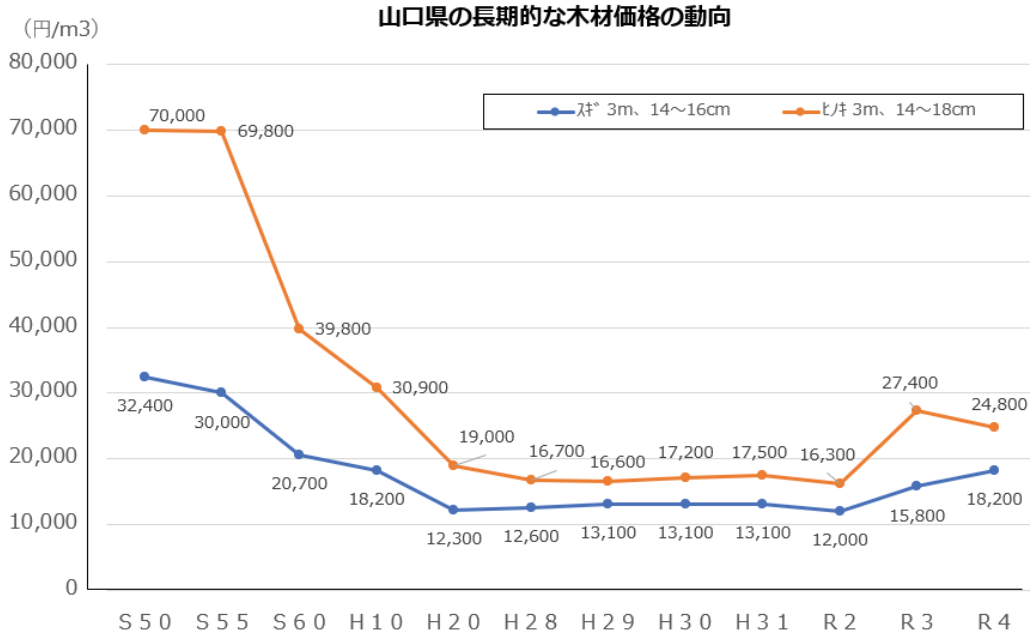
豊かな森林資源を有する萩市ですが、森林・林業を取り巻く環境は全国的な状況と同様に、安価な外国産材の普及による木材価格の低迷や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、緊迫する国際情勢等を背景とした木材価格の不安定な状態が長期化している状況です。

※３「伐期」… 人工林として植林を行った後、樹木が成長し伐採に適した時期。一般的に、スギで35年、ヒノキで40年と長い年数を要する。

伐期を迎えた人工林の主伐（※4）・再造林（※5）を実施し、森林所有者は収益を得る時期にさしかかっていますが、木材販売収入に対して育林経費が高く、植栽から伐採までの長期にわたる林業経営が困難な状況となっています。この採算性の悪化により、主伐を行っても再造林されないケースも多く見受けられるなど、森林経営管理に対する森林所有者の意欲が低下しています。

間伐（※6）等の森林管理が適切に行われず過密化する人工林も存在します。過密化した森林は、十分に光が差し込まないため下草が育たず土が流されやすくなり、水源涵養機能や土砂流出防止機能の低下が懸念されます。

市内の林業経営体（※7）・素材生産（※8）者では、採算性の悪化に伴う林業に対する魅力の低下により安定的・継続的な雇用が減少し、担い手不足が深刻なものとなっています。これに伴い萩市産材の安定的な生産力や供給力も不足している状況です。



出典：山口県森林企画課調べ

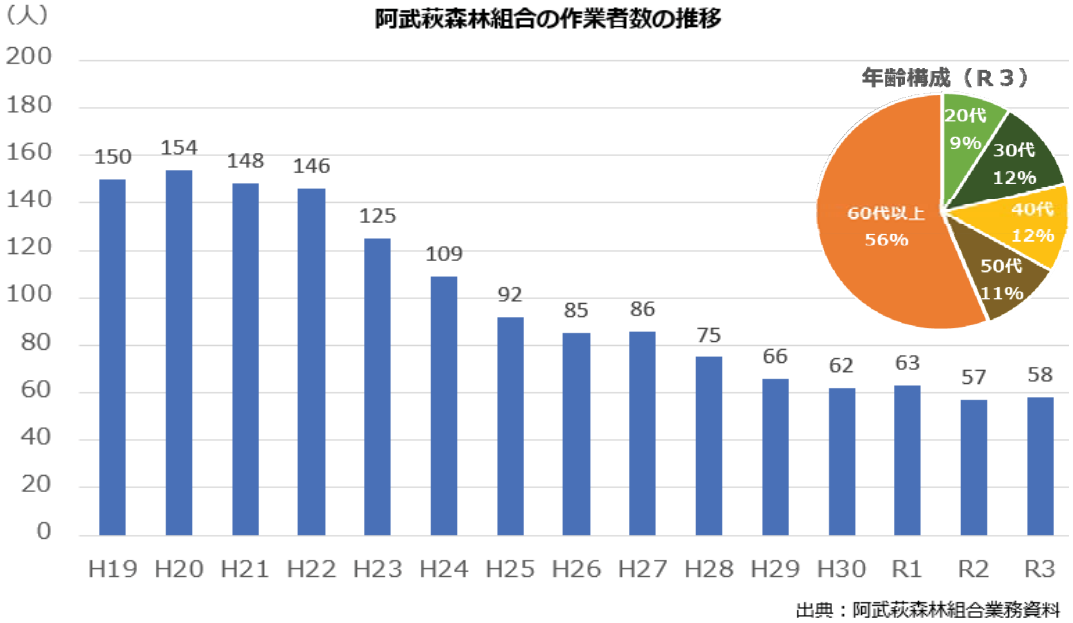
※4 「主伐」… 伐期に達した人工林において樹木を伐採し収穫すること。森林の状態を大きく変えるため、更新とも呼ばれる。

※5 「再造林」… 人工林の主伐後に、再び苗木の植栽、種子の播き付けのような人手を加えることにより森林を造成すること。

※6 「間伐」… 育てようとする樹木同士の競争を軽減し成長を促すため、混み具合に応じて、一部の樹木を伐採すること。

※7 「林業経営体」… 森林所有者等からの委託又は立木の購入により造林、伐採などの林内作業を行う森林組合、素材生産業者など。

※8 「素材生産」… 森林から木材を生産する行為のことで、樹木を伐採し、需要に応じて利用しやすいように直径や長さを整えるなどして、丸太として森林から運び出す行為。



また、時代とともに私たちのライフスタイルも変化してきており、森林・林業と私たちの暮らしとの関わりも変遷し、日常生活の中での森林資源の利用機会が減少してきています。その結果、市内の木材流通に関わる人たちの連携も乏しくなっています。

一方で、近年の自然志向やコロナ禍に伴うアウトドア需要の高まりにより、森林セラピー（※9）や、トレッキングやキャンプなど森林アクティビティー（※10）が注目されています。

新たな生活様式が求められる今、ソーシャルディスタンスを保ちつつ市民が安心して集える場所として、また、森林の多様な機能の発揮という社会的責務を担いながら、密空間を気にせず自然の中で働くことができる「職業としての林業」が見直されるなど、森林・林業への期待が高まっています。

森林でのフィールド活動

※９ 「森林セラピー」… 森林の持つ癒し効果を活かし、心身のリフレッシュや健康増進を図るための散策や森林浴等の森林内での活動。

※10 「森林アクティビティー」… 森林内の地形や樹木などの多様な環境要素を活かし、自然の中で体を動かすことを楽しむ活動。

３）萩市が目指す森林・林業のあり方

私たちの文化や生活様式は時代とともに移り変わり、森林に求められるものや林業の意義についても、その時々に即して変化してきています。この時代の流れに柔軟に対応し､適切な施策を講じていく必要があります。

また、萩市の豊かな森林資源を余すところなく活用し、森づくりとその恵みを活かした持続可能なまちづくりに取り組まなくてはなりません。

森林は、長い時間軸で、気候や地質、動植物等の生息、林業を中心とした様々な人の営みによって育まれてきました。また一方で、私たちの暮らしも、水や空気、木材など森林からの沢山の恩恵のもとに成り立ってきました。

林業は産業としての経済性を考えながらも、長期的な森づくりという観点を持ち、これから先も、森林と人の営みが適切なバランスで重なり合いながら共生することを目指す必要があります。

萩市では、こうした森林・林業に関わる者が、経済的な豊かさと森林の様々な恩恵を受けられる環境の豊かさから幸せを実感し、その状態が世代を超えて長く続けられることを目指し､「次世代まで幸せになる林業」を本ビジョンの基本理念としています。

森林づくりに関する検討会

2　将来像

萩市が目指す「次世代まで幸せになる林業」を実現していくためには、造林、保育、主伐など林業の各種作業を循環的に継続する営みである「森林整備」と、林業に伴う生産物等を利用し暮らす営みである「森林資源の利用」が連動し調和した、持続可能な状態を構築していかなければなりません。

すなわち、成熟した人工林を「伐って」、「使って」、そして次世代への財産として育むために「植えて」、「育てる」という循環型林業（※11）を確立していく必要があります。

これら「森林整備」と「森林資源の利用」の取組みが両輪として連動し、循環型林業を推進していくためには、森林整備を担う人材の確保、そして、森林資源の利用に関わる人材の育成が必要不可欠です。将来を見据え、次世代に向けたリーダーやプレイヤーを確保することこそ持続可能な林業を支えることとなります。

萩市では、このような取組みに必要な地方財源を安定的に確保する観点から国において創設された「森林環境税・森林環境譲与税（※12）」や各種助成制度を効果的に活用しながら「次世代まで幸せになる林業」に向けた施策を推進することとします。

森林整備（萩市産材の生産）

森林資源利用（萩市産材の活用）

※11 「循環型林業」… 樹木を植えて、育てて、伐って、使う、また植えて、育ててという循環的に利用するサイクルを継続する林業。

※12 「森林環境税・森林環境譲与税」… 温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、平成31年に成立した森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律に基づき創設された国税及び地方自治体への譲与税。市町村においては、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林整備及びその促進に関する費用」に充てることとされている。

萩市森林・

基本理念

次世代まで幸

将来像

森林整備

連動
持続可

基本方針・施策

「人と生きるもりづくり」

利益の還元と生産性の向上

・団地化による施業の集約化と路網の整備
・事業量の安定確保
・主伐・再造林一貫作業の推進
・適正な経営管理と生産性の向上

魅力のある林業の実現

・林業就業者の所得等の改善
・林業就業を見据えた学校・移住者等へのアプローチ
・林業経営体の体制強化と担い手確保・育成・定着

多様な森林機能の発揮

・再造林の促進と団地外の森林の適正な整備・管理
・公益的機能を高める多様な森林づくり
・治山事業の推進

林業ビジョン

せになる林業

した

森林資源利用

能な状態

「森と生きるまちづくり」

森林の恵みを活かした暮らしの創出

・住宅や建築物等への萩市産材の利用促進
・イベント等を通じた木材利用事例の啓発
・木材を利用するライフスタイルの普及

森林に関わる人材の育成

・森づくりから木づかいまで関係者相互の意見交換の場づくり
・知識・関心を高めるための勉強会の開催
・木育やフィールド活動等を通じた人材育成
・教育現場における体験プログラムの実施

森林資源の価値の上昇

・萩市産材の高付加価値化と販路拡大
・競争力のある製品開発・ブランディング
・未利用材・林地残材の活用

３　基本方針

１）人と生きるもりづくり

私たちが密接に森と関わりながら森林整備を進めていくためには、まず、林業における採算性を改善する必要があります。森林所有者に対し少しでも利益の還元ができるよう作業の生産性の向上に努めます。

また、効果的に林道や作業道等の路網を整備することにより施業（※13）の効率化・省力化を図ります。

次に、森林整備を担う林業経営体で慢性的に不足しているマンパワーを将来にわたり確保していくために、新規就業者への支援に加え、組織改革、スマート林業（※14）を支援するなど魅力のある林業の実現を目指します。

さらに、山地災害防止のための治山工事や土壌保全のための森林整備、水源涵養や様々な野生動植物が複雑に絡む生物多様性の保全に取り組むことにより、多様な森林機能の発揮を図ります。

機械化による作業の生産性の向上

自然の中で働く林業

新規就業者の定着に向けた意見交換会

※13「施業」… 目的とする森林を造成、維持するために行う植林、下刈り、除伐、間伐等の森林に対する人為的な働きかけ。

※14「スマート林業」… デジタル・ＩＣＴ（情報通信技術）、ロボット等の先端技術を活用し、森林施業を効率化・省力化し、労働安全の確保や需用に応じた木材生産を可能とする林業。

２）森と生きるまちづくり

私たちが森や木材を身近に感じ、再び関わりを深めていくために、私たちのライフスタイルを見つめ直しながら、「ウッド・チェンジ」（※15）すなわち、森林の恵みを活かした暮らしを創出するよう誘導します。

次に、様々な場面で木材の活用や啓発活動が実践できるよう、関係者相互が意識を高め合えるような場を通じ、一人でも多くの森林に関わる人材を育成します。

また、萩市産材のブランディング（※16）により競争力を高め、森林資源の価値の上昇に努めます。

木材の共販所（原木市場）

良質な萩市産材

萩市産材を活用した歴史的な建物、まちなみの保存

※15 「ウッド・チェンジ」… 身の回りのものを木に変える、木を暮らしに取り入れる、建築物を木造化・木質化するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動。

※16 「ブランディング」… 商品やサービスが、他とは違うものとして認識される「ブランド」を構築し、市場競争力や価値を高める取組み。

４　基本施策

１）人と生きるもりづくり

利益の還元と生産性の向上

萩市では、成熟し伐期に達した人工林が多く存在していますが、木材価格は一時的な変動はあるものの、長期的な視点で見ると価格低迷期が継続しています。

また、近年、森林所有者の森林管理意識の低下により、林業経営体が効率的に安定した仕事量を確保できない状況が多く見られます。このため、森林所有者にとってこれまで手間暇をかけて育てた人工林の立木を売り払う時に「少しでも高い価格で」と思うことは当然なことではあるものの、思うような価格での販売が困難な状況です。

このような情勢を踏まえて、施業箇所の集約化や事業量の安定確保により作業の効率化を図るため、阿武萩森林組合、山口県、萩市が協力し、森林団地（※17）の形成を行ってきました。

森林団地形成時に、森林所有者に対し今後の森林管理方法を確認してきましたが、所有者自身が伐採等を実施していくことは困難であり、林業経営体など他者への委託を考えているとの意向が多く見られました。そのため、これまで育成してきた森林を今後放置してしまわないよう、意欲と能力をもった林業経営体へ森林管理を任せるよう誘導し、造林に関する支援を行うなど、引き続き森林団地化による施業の集約化と路網の整備及び適正な維持管理に取り組みます。

森林の団地化の検討

森林団地内での高性能林業機械による作業

※17 「森林団地」… 森林所有者への意向調査を経て、森林所有者と林業経営体が契約を行い面的に集約化した森林の区域。

森林団地形成のめどが立った地域では、森林所有者と林業経営体が長期間の管理受託契約を締結することにより、長期にわたる事業量の確保を目指しています。

萩市内では、主伐後に再造林を行わず、天然更新される森林所有者も多いことから、次世代では循環型の林業が成り立たず安心・安定した職業とならない恐れがあります。このため、再造林の意義を森林所有者に理解していただくとともに、再造林の支援を実施していくことで次世代林業者のための事業量の安定確保を図ります。

また、近年、作業の効率化のため主伐・再造林一貫作業（※18）の取組みやコンテナ苗（※19）等の活用も注目を集めています。しかし、市内や県内においてもコンテナ苗の生産が追い付いていないため、苗木生産者に対する支援を行いながら、主伐・再造林一貫作業を推進します。

このように、森林団地化により施業箇所を集約するとともに、路網整備や林業機械、スマート林業の導入を促進することで、作業の生産性を向上し、適正な経営管理を図ります。

コンテナ苗の生産

※18「主伐・再造林一貫作業」… 主伐と並行又は連続して、地拵（じこしら）えや植栽といった再造林の作業を行うもの。主伐に利用する林業機械を地拵えや苗木の運搬にも利用することで作業コストの縮減が期待できる。

※19「コンテナ苗」… 専用のコンテナ（育成用のポットを複数連結させた容器）によって育成された根鉢付きの苗。根鉢があることで乾燥に強く、植栽の適期とされる春や秋以外でも植栽後の生育が見込まれる。

魅力のある林業の実現

林業を魅力ある職業とするために必要なことは、林業従事者の給与体系や福利厚生等の処遇の見直しを進めることです。これは新規就業者のみならず長年林業に従事された方にも当てはまるため、林業経営体にとって喫緊の課題となっています。自社努力での経営改善等が難しい経営体や個人で林業を営む者への支援として、社会保険労務士、中小企業診断士等の外部事業者の協力を得るとともに、新規就業者への各種支援策の充実を図り、林業従事者の所得等の改善に取り組みます。

また、萩市内の一次産業では、従事者の高齢化や減少が進んでおり、阿武萩森林組合でも担い手不足が問題となっています。このままでは10年後には作業員のほとんどが高齢者となるため、若手林業者の雇用確保に力を入れつつ、他産業種からの兼業も含めた幅広い世代での雇用確保など、様々な対策を考えていく必要があります。

萩市林業の未来を担う！

あわせて、林業が他産業種と比べても魅力のある仕事であることについて情報発信に取り組む必要があります。

豊かな森林資源を持つ萩市の林業は、将来にわたり安定した作業量が見込まれており、先に述べた循環型林業を推進することにより、更に充実したものにすることができます。

また、近年、残業による過労死などが問題視されている中、個人や家族の時間を大切にしていきたいと考える人が増えています。自然相手の仕事であるため日没等により残業がほとんどないことや、個人事業者であれば自分のペースで仕事ができるため、様々なライフスタイルに合った働き方ができる「自分時間の確保」が容易であることも林業の魅力の一つといえます。

これらのことから、林業就業を見据え、市内、県内の高校生や大学生、近県の林業大学校、また、移住者等へのアプローチに取り組みます。

一方で、林業は労働災害の発生率が他産業種と比較して高い状況となっています。先に述べた林業経営体への支援を行っていく中、技術の向上や安全指導等を含めた育成方針を作成し、定着を図っていくことも必要と考えます。

伐採技術の向上や安全対策の徹底などを記載したマニュアルづくりや高性能林業機械（※20）やスマート林業等の新規技術の導入による労働強度の軽減、労働災害発生率の減少、また、労働災害発生時の応急対応への体制構築など、働きやすい環境づくりにより、林業経営体の体制強化と担い手確保・育成・定着に取り組みます。

新規就業希望者向けの相談会

安全装備を装着した作業者

※20 「高性能林業機械」… 従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械。

多様な森林機能の発揮

近年では、ＳＤＧｓをはじめ二酸化炭素吸収対策など環境問題に対する取組みの一つとして、適正な森林管理に対する注目が集まっています。

現在は、生産性の向上のため大型の林業機械の導入による作業が中心となっており、今後もしばらくはその傾向が続くものと見込まれますが、主伐を行った全ての箇所において、従来どおりの木材生産のための再造林を行う必要があるのかは慎重に検討しなければなりません。大型の林業機械の導入に不向きな作業不利地等では、天然林化や広葉樹林化を図るなど、次世代のための施策・方針を検討していく必要があります。

森林団地外において、将来的にも木材生産による採算性が見込める森林では、循環型林業を確立するための再造林の促進と森林の適正な整備・管理を誘導するとともに、木材生産による採算性が見込めない森林においても、様々な樹種による更新を検討し、水源涵養機能など公益的機能を高める多様な森林づくりを行っていく必要があります。

また、山地災害発生リスクの高い地域では、予防治山への取組みや山地災害に強い森づくりを行うとともに、災害発生時には、被害の拡大を防止し、市民の命や財産を守るため、速やかに復旧事業に取り組む等、治山のための事業を推進します。

多様な森林機能発揮のための森づくり

２）森と生きるまちづくり

森林の恵みを活かした暮らしの創出

森林の多面的機能の発揮にとりわけ重要な役割を果たしているのは樹木です。身近に森林を有する私たち日本人は、昔から「木」を生活に取り入れ、「木」とともに暮らしてきました。世界最古の木造建築として知られる奈良県の法隆寺は、建てられてから 1300 年を超えてもなお現存しています。木材は上手に使うことで強く長持ちする、とても使いやすい素材として私たちの暮らしを支えてきました。

しかし、戦時期の過度な森林資源の利用と、その後の急速な経済成長期に、私たちの暮らしは金属やプラスチック、コンクリートなどを多用するようになり、身近な木材を使う文化が薄れてきています。

こうした中、金属やプラスチックなどの利用に比べ木材の利用が環境への負荷が小さいことや、身近な人工林資源の充実を背景に、あらためて身の回りのものを木に変える、建築物を木造化・木質化する、木質燃料を利用するなど、木の利用を通じて持続可能な社会へチェンジする行動「ウッド・チェンジ」が国全体で推進され始めています。

木材が持つ断熱性や調湿性、衝撃を緩和するといった特性は、多くのストレスを抱えると言われる現代社会の暮らしを快適なものにし、精神面や健康面に良い影響をもたらすことが期待され、研究も進められています。

また、木材は森林で伐採され利用者のもとに届くまで製材や加工、施工など様々な事業者等が関わる工程を経る必要があり、木材の製品を市外から仕入れるのではなく身近に豊富にある木材を域内で利用することは、製材・加工事業を中心に地域経済の活性化にも貢献するものです。

簡易木質空間による萩市産材体感スペース

このため、林業だけでなく木材産業や建築業などの事業者等とも連携し、公共建築をはじめ、民間の住宅や事業所、店舗等の建築物において、萩市産材の利用を促進します。

加えて、多くの市民が萩市産材に接し、木材の香りや手触り、色合いなどの特性を体感できるイベント等を実施します。こうしたイベント等を通じて、身近な木質化や木材利用の事例について情報発信し、木材利用の意義について理解を深められるよう啓発に努めます。

これらの取組みにより、多くの市民が住まいを木造・木質化したり、木の道具や木質燃料を使うなど、暮らしの中の様々な場面で木材を利用するライフスタイルの普及を図ります。

森林に関わる人材の育成

本ビジョンの将来像として掲げる、「森林整備」と「森林資源の利用」が連動し調和した、持続可能な状態とするためには、「森林整備」に関わる人材と「森林資源の利用」に関わる人材が交流し、前者は森林資源に求められるまち側からのニーズを、後者は森林資源の現況に関する情報や持続的に再生産可能な資源の使い方を相互に理解し協働していくことが必要です。

また、豊富な森林を抱える地域の住民として、より多くの者が幼少期から森林や木材を身近に感じ、その特性を理解し、様々な場面で森林への関わりを持ち続けることができるよう取り組んでいく責務があります。

このため、森づくりから木づかいまで各分野の事業者等の関係者が集まり、それぞれが有する情報を共有し、意見交換することのできる場づくりを行うほか、関係者の裾野を広げ、立場の異なる者同士が連携できる方法を見出していくために、森林資源の循環利用に関する知識・関心を高めるための勉強会を開催します。

森林や資源の利用に関する勉強会・意見交換会

また、小中学校等の教育現場において、身の回りに広がる森林に目を向け、豊富な森林を有する地域環境であることの認識を深め、林業や森林資源の利用のあり方など、地域の森林について体験を通して総合的に学習するプログラムを実施し、子どもたちの創造性や可能性を引き出していきます。

さらに、木育（もくいく）（※21）や森林空間を活用したフィールド活動等を通じて、子どもから大人まで幅広い世代で、森林や森林資源に対する親しみや愛着を育み、多角的に森林の整備や森林資源の利活用に関わる人材の育成を行います。

林業・木育体験

森林資源の価値の上昇

近年、木材需給は不安定で見通しの立てにくい状況が続いている中、災害の頻発や地球温暖化など環境面での危機感から、森林の持つ多様な機能への注目が集まり、身近な森林資源に対する期待や評価は高まりつつあります。

政府は 2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しており、こうした観点からも、輸入材から地域材への転換について注目が高まっています。

また、森林空間を健康増進やレクリエーション、アクティビティーの場とするなど、多様な活用により新たな価値を創出する事例が増えています。

※21 「木育（もくいく）」… 子どもから大人まで、木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうという観点の取組み。

萩市の森林資源の現況を見ても、伐期を迎えた人工林資源を中心に、豊富な森林資源を有効に利活用し、次世代の森づくりにつなげていくことが必要な時期に達していますが、木材の多くは合板（※22）や集成材（※23）等の比較的安価な製品向けに流通しており、より高価格で取引されることを模索していく必要があることから、萩市産材の高付加価値化と販路拡大に一層積極的に取り組みます。

また、萩市は、これまで育成されてきた豊富な人工林資源を有していることに加え、生活と近い場所に森林が広がり、アクセスの良い森林空間を活用していくことで新たな価値の創出が期待できることから、これら豊かな森林を活かした取組みを持続的に続けていくために、萩市版の林業６次産業化（※24）を推進すべく事業者等と連携した競争力のある商品開発・ブランディングを行います。

さらに、木材を利用する際に一般的に必要とされる部材以外の林地残材（※25）や、未利用となっている森林資源に改めて目を向け、製品開発等による利用方法の開拓と、関係する事業者等との調整を行い、需給を踏まえて利用が進めやすい仕組みづくり等により活用を図ります。

萩市産材によるフローリング材

林地残材から抽出したアロマオイル

※22 「合板」… 丸太から薄くむいた板（単板）を、繊維（木目）の方向が直交するように交互に重ね、接着したもの。丸太の質によらず、様々なサイズや強度の製品ができ、建築用材として多用されている。

※23 「集成材」… 複数の小さな板を乾燥させ、同一繊維方向で接着剤を用いて張り合わせたもの。小さな丸太からでも、大きなサイズや安定した強度の製品ができ、家具や建築用材としても多用されている。

※24 「林業６次産業化」… 木材の生産（伐採）をする林業が、原木市場に流すだけではなく、関係する事業者等と連携しながら加工・流通・販売まで一連で行うことで、林業者や森林所有者の収益の向上を目指すもの。

※25 「林地残材」… 間伐等の際に切り捨てられたものや、主伐の際に発生した枝・葉・根株など、森林から運び出されずに残されているもの。

萩市森林・林業ビジョン

策定　令和５年３月

発行　萩市農林水産部林政課
〒758-8555
山口県萩市大字江向510番地
TEL：0838-25-3131　FAX：0838-25-3770
E-mail：rinsei@city.hagi.lg.jp

萩市森林・林業ビジョンは、森林環境譲与税を活用して作成しました。

萩　市